コヴェントリー＝サイクル劇（XII）

橋本　侃

第十五演目　キリストの生誕

（1）　写本八十二頁

ヨセフ　主よ、人間にはどんな苦しみが待ちうけているものなのか、
この世で安らぎは与えられていないのか！
皇帝オクタヴィアヌスは、名指しで厳命された、
年貢を各自持参するようにと、
どの市町村においても。
わしは貧しい大工だが、ダヴィデの血を継ぐ。
勅命は必ず守らなくてはならない――
咎めを受けるからだ。

（2）

さて、妻よ、お前ならどう考える――
出向かなくてはならない、
遠いベツレヘムの町まで。
そうなれば、わしの体は痛みつけられよう。

マリア　あなたと一緒に行きます。
ベツレヘムを眺めやりたい。
親族の一人にでも会えたら、
とても嬉しい。

（3）

ヨセフ　お前は身ごもってるから、連れて行くのが気がかりだ。
わしの体力では大変な仕事になるだろうが、
ぜひともお前を喜ばせたい。
だが、身ごもっていると、女はすぐにつらくなるものだとか……。
それでは出かけるか、できるだけ急いで。
全能の神よ、わしらの旅路をお守りください。

（4）

10　15　20

マリア　あら、心優しいあなた、ぜひ教えて――
向こうの丘の上に立つのはなんの木ですか。
ヨセフ　あれは確か桜と呼ばれる木だよ、マリア。
時節が巡れば、たらふく食べられるかもしれない。

（5）

マリア　あなた、もう一度振り返って、あの木を見てください――
優しい花を咲かせています。
ヨセフ　さあさ、マリア、向こうの町にもう入っていないと――
軽くたしなめておくのだが、咎めを受けるかもしれないぞ。

（6）

マリア　でも、あなた、どうか、もう一度ご覧ください、
桜ん坊が実っている様子を。
ぜひ食べてみたい――
その労苦を取っていただけないかしら。

（7）

ヨセフ　では、望みを叶えてやれるかどうか試してみるか……。
おおっと、あの桜ん坊をもぎ取るのは大変な仕事だ――

左八十二頁

25　30　35

枝まであんなに遠くては、そう簡単には行かぬ――
赤ん坊を仕込んだ奴にもぎ取ってもらったらいいのに……。

（8）

マリア　さあ、わたしのことを思いやって、
優しいお気持ちがあるのなら、どうぞ食べさせてください。
だめだとおっしゃるなら、神に感謝をささげてみます――
あっ、木が背をかがめましたよ！
今、取り集めれば、お腹が一杯になるまで食べられます。

（9）

ヨセフ　おお、わしは三位一体の神を怒らせてしまった――
わしの伴侶に思い遣りのない言葉を掛けてしまった。
そうだ、これ以外のことだと信じられぬ――
わしの伴侶は栄光の王の子息を孕んでいるのだ。
御子は、必要な時に、わしらを助けてくれるはずだ。
御子よ、あなたはエッサイの親族からしかるべく産まれるはず――
あなたより前に、王たちと族長たちが産まれた。
これらすべての人は皆、あなたの親族にふさわしい――

40　45　50

聖書に学者が記しているとおりだ。

（10）

マリア　あなたが今なさったお話がありがたい。
この道をこのまま進んでゆくのが賢明な判断です。
全能の父がわたしたちを慰めてくれますように、
栄光に溢れる聖霊がわたしたちの友でありますように！

（11）

ヨセフ　もしもし、そこの御仁、こんにちは！
お見受けしたところ、この町の方ですな。
連れ合いとわしのために、宿を見つけてほしいのだが……。
家内はすっかり疲れ切ってしまい、
直ぐにでも横になりたがっているのです。
皇帝の命令をまっとうしようと――
しかるべき年貢を払うつもりでいるのです。
不払いを咎められて苦しむことがないように、
この町にやって来たのです。

（12）

市民　この町に、知っている宿屋はありません、
奥さんとあなたがお休みになられるようなのは。
どの宿屋も人が割り振られて一杯になっています――
皆が皆、外の通りで寝ているくらいなのですから。

（13）

城門から市内に入ってもだめです。
門の中でも、夜になると、
通りでさえ寝る場所は見つけにくい。
それも、喧嘩でもしないと休むこともままなりません。

（14）

ヨセフ　いいや、あなた、人と遣り合うつもりはありません。
そんなことは、わしの力に余ります。
でも、わしは心配で心配でならないのです、
いとおしいマリアだけが気がかりなのです。

（15）

ああ、優しい妻よ、どうしたらいいのだ？
今晩はどこに泊まればいいのか――

天におられるわしらの父に向かって祈ろう、
悪者から身を守ってくださるように。

（16）

市民　善良な人たちだから、一言だけ言っておこう。
言うとおりになさるおつもりなら、
この通りを行った道路わきに一軒の家畜小屋がある。
動物と一緒で良ければ、泊まれるかもしれない。

（17）

マリア　あなたを天の父が報いてくれるに相違ありません――　左八三（85）
天の父の御子がこの胎内にいるのですから。
どこにいらしても、あなたの身とあなたの財産を守ってくださるでしょう。
あなた、もうわたしたちは行きましょう――時が来ています。

（18）

でも、あなた、聞いてください、新しく申しあげることを。
この身にはっきりと感じています――
キリストがわたしの中で肉化したのです。
まもなく産まれるという実感があります。

80　90

（19）

この貧しい小屋を産屋としましょう――
恵みを受けた誕生を待つのです。
この世すべてを造られた方の誕生です。
その子がお腹の中で動くのが感じられます。

（20）

ヨセフ　神がお前を助けてくれるように祈ろう。痛ましいことだ――
こんなに見すぼらしい所に宿を取り、こんなにも貧しいあり様で、
御子が動物に混じって産まれることになろうとは――
神の不思議な業（わざ）が成されるに違いない！

（21）

壁一つない、この惨めな小屋の中には、
火も薪もない。

マリア　ヨセフ、わたしはここに泊まります――
ここにこそ栄光の王の御子がお産まれになるはずですから。

（22）

ヨセフ　さあ、従順な妻よ、元気を出しておくれ。

思っていることを話してごらん、
安かろうが高かろうが、物惜しみはしないから。
さあ、聞かせておくれ、食べたい物、飲みたい物はなんだ。

（23）

マリア　食べ物も飲み物も欲しくはありません――
全能の神がわたしの糧となりましょう。
産屋にこのように引き入れられたからには、
早くわたしの子が見たい。
それゆえ、あなた、あなたの実直さに恃みます、
この場を離れてください。
そうしてくだされば、わたし一人で慎ましく、
この場で、神の貴い慈しみを待ちます。

（24）

ヨセフ　妻よ、すべてお前の好きなように整えなさい。
邪魔にならないようにこの場を外し、
お前を楽にしてくれる産婆を探そう、
今日、子供を苦しんで産む時のためだ。

真実の妻、きれいな乙女よ、行って来る。
三位一体の神がお前を慰めてくれるように祈ろう。
マリア　あなたのために、天の神に向かって祈ります、
どこにいらしても、神があなたを守ってくださいますように。
〔よせふガイナイ間ニ、まりあハ神ノ独リ子ヲ産ム。〕

（25）

ヨセフ　さても、すべての救いをもたされる神よ、
すべての慈しみの基があなたにあるのですから、
痛みと苦しみから妻を守ってください、
産婆が見つかるまでは。
分娩の最中の女は気苦労で身動きできぬものだ、
大きな痛みから苦しみ、うめきながら。
神よ、妻が気を失わぬようにお助けください。
あれが独りっきりなのがかわいそうでならない。

（26）

男というものは役立たずだ、
連れ合いが産みの苦しみにあっているというのに。

だからこそ、産婆を直ぐに見つけてやりたい、
あんなにも年若い妻だから助けてもらおう。

（27）

ゼロミ　おや、あなた、なんでそんなに悲しそうにしているの？
何を嘆いているのか、少しは話してごらんよ。

ヨセフ　今が今、妻が気を揉みに揉んでいるのだ――
産みの苦しみの最中で、たった独りきりだ。
玉座にいます神の愛に掛けて言う――
いい仕事をする産婆さんたちよ、
わしの若い伴侶を急いで助けてくれ。
あの美しい赤子のことがひどく気がかりなのだ。

サロメ　元気を出して、喜んでくださいな。
わたしたち二人がご一緒しましょう。
独りで苦しい目にあうような女は今までに一人もいない――
奥さんを直ぐに助けてあげよう。

（28）

わたしの名はサロメ、誰もが知っている、

左八四

135　140　145

名高い産婆だと。
女が産みの苦しみにあってる時は、慈しみも増す時だ。
わたしが行ってあげよう――今まで一度も恥をかいたことがないよ。
ゼロミ　それに、わたしはゼロミ、人に知られた産婆だよ。
わたしたち二人があんたと一緒に行って、
奥さんの痛みと苦しみに手を貸してやろう。
さあ、ヨセフさん、行きましょう、直ぐにそこへ。

（29）

ヨセフ　お礼を言いたい――わしはほっとした！
真っ直ぐに連れ合いの所へゆこう。
このみすぼらしい小屋の中に、妻のマリアが寝ているのだ。
よき友たち、あれを慰めてやってくれ。
サロメ　あたしたちには、この小屋に入る勇気がない――
偉大な輝かしさが内部に溢れている！
夜の月でも、昼間の太陽でも、
その明るさにおいて、これほど光り輝いてはいない。

（30）

ゼロミ　わたしには、この家に入る勇気がない――
この不思議な光が恐ろしい。
ヨセフ　なら、わし独りで中に入って、
できるかぎり妻を元気づけてやろう。
「すべて安かれ」と言おう、乙女にして妻であるお前に。
どんな具合だ、機嫌はどうだ、さあ、口を利いておくれ。
今日のこの日、お産の床にあるお前を安心させようと、
二人の善良な産婆を連れてきたぞ。

（31）

身動きできぬお前を助けようと、
ゼロミとサロメという産婆がわしと一緒に来た。
来たには来たが、二人とも恐ろしさから、外に突っ立ったままだ――
目にしている光のせいで、気後れして、どうしても中へ入って来ない。
マリア　〔微笑みながら〕神の威厳が充ち溢れているのです。
この瞬間にも、神の力は隠れることがないのです。
産まれたこの子は母が罪に囚われていないことを証明してくれるでしょう、
とてもきれいな乙女であることも。ですから、わたしは微笑むのです。

165　170　175　180

（32）

ヨセフ　妻よ、なぜ声を立てて笑うのか――咎められるぞ。
お願いだ、それ以上は笑ってくれるな。
もしかすると、産婆たちは腹を立て、
せっかく必要だというのに、手を貸してくれないかもしれない。
産婆が必要だというのに、
帰ってしまったら、お前、どうする？
だったら、できるだけ真面目になって、
産婆たちの精励なる仕事の世話になりなさい。

（33）

マリア　あなた、願いです、不快に思わないでください。
声を立てて笑ったのは、大きな喜びに満たされているからです。
この世を造った子供がここにいます――
今、わたしから産まれ、すべての人を救うのです。

ヨセフ　つい腹を立ててしまった――お前に慈しみを求めたい。
おお、慈しみに溢れる御子よ、憐れみください。
あなたは主人、わしは下僕にすぎません。

左八五

わたくしが今がいま犯した大きな過ちをお許しください。

（34）

ああ、産婆たちに向かって、なんということを口にしてしまったのだ！
お二人にお願いする、もっとこっちに寄ってくれ。
たった今、悟ったぞ、乙女であるわしの妻と、
あれの腕の中にいる子についてだ――
乙女にして母でもある妻と一緒にいるあの子のことだ。
神がなさることだ、これ以上の間違いはない。
この世の母親で、これほどきれいな身をした母親はいなかった――
妻は産みの苦しみを受けなかったのだ。

（35）

ゼロミ　いや、この人には産みの苦しみがあったはずだ。
さもなければ、子が産まれるはずはない。
ヨセフ　さあ、お二人よ、どうかお願いだ、
妻の抱く子を見てやってくれ。
サロメ　偉大なる神がこの場所にましますように！
優しい妹のようなあなた、気分はいかがですか？

210　205　200

マリア　貴い慈しみを持たれる父に感謝しております。
神ご自身の御子とわたしの子をご覧ください。

（36）

ゼロミ　すべて安かれ、マリアさま、正に「良い朝」の挨拶を！
ところで、この美しい赤子の産婆は誰だったのかい？

マリア　誰をも見捨てることのない方が
この赤子を送られましたが、それでも、わたしは従順な乙女です。

（37）

ゼロミ　この手で触れさせておくれ、

八六（HT）

膏薬が必要かどうか。
具合良くなるように、楽にしてあげよう、
他の女たちのように痛みがあれば。

マリア　わたしのは美しい分娩でした——
痛みも苦しさも少しも感じませんでした。
わたしはきれいな乙女で純粋無垢の処女のままです。
あなたの手でお試しください。
〔ココデ、ぜろみハ善良ナル処女まりあニ触レテ言ウ。〕

215　220

(38)

ゼロミ　おお、力溢れる神よ、わたしを憐れみください！
ああ、いまだかつて聞いたことのない驚異そのものだ！
こうして大胆にも触れ、そして、目にしている――
乙女から美しい赤子が産まれたのだ！
それに、他の子のように洗浄する必要もない！
どこもかしこも、この子はきれいで純潔だ、
汚点の一つも、どんな汚れもない――
しかも、この子の母親の処女性は傷ついていない！

(39)

妹のサロメ、近くへ寄って、
このきれいな乙女の胸をご覧、
美しい乳が溢れている様子を！
それに、最初にも言ったが、きれいな赤子だ、
他の赤子のように垢にまみれていない。
母も子もきれいで純潔だ。
これは驚くべきことだ――

225　230　235

このように母子が共に汚されていないのを目にするとは！

（40）

サロメ　そんなの嘘だ、そんなことがあるはずない。
母子共にきれいであるなどとは信じられない。
乙女が乳を出すとこなぞ見た人はいない。
女なら、子供を産む時には必ず酷く苦しむはずだ。
確かめなければ信じることなどできない、
この手で触れて確かめないことには。
どうしても腑に落ちない、
この女に子供が産まれ、それでも乙女でいられるなどとは。

（41）

マリア　疑いがすっかりなくなるように、
手で触って、確かめてください、
さあ、しっかり探り、事実を確かめてください、
わたしが穢れているのか、きれいな乙女のままなのかを。
〔ココデ、さろめガまりあニ触レルト、ソノ手ハ干カラビテシマウ。マルデ大声デ泣キ叫ブヨウニ言ウ。〕

左八六（245）

240

250

サロメ　ああ、ああ、悲しいかな！
わたしの強い疑いと間違った思い込みのせいで、
この手は利かなくなり、粘土のように干乾びてしまった！
わたしが誤って信じ込んだせいで、酷いことになってしまった！

（42）

ああ、いっそこの世に産まれてこなければよかった！
神の力にたいして罪を犯してしまったので、
この手から力がすべて抜けてしまった。
棒のように固くなり、握れない——
このように光り輝く乙女を試み、
その純潔さに異議を唱えたせいだ。
今や大きな災いにこの身を置いてしまった。
ああ、ああ、わたしの見下げ果てた行いのせいだ。

（43）

おお、力ある主よ、あなたは事実をご存知です——
わたしがいままでずうっとあなたを畏れてきたことを。
貧しい人にはいつも気に留め、

255　260　265

あなたを愛する気持ちから、施しをしたことを。
あなたを慕い求める女たちと未亡人たちの両方を、
困りに困っている友のいない子供たちを、
癒してあげました――これもすべてあなたのためにしたのです。
それに、どんな報酬もお礼も受け取らなかったのです。

（44）

ああ、それが今や、罰を受けた者となりました――不信のせいだ。
そのことは、この乙女を試した時に明らかになりました。
わたしの手は利かなくなり、痛みの酷いことと言ったら！
ああ、悲しいかな、そもそもあんな試みをしてしまったとは！

天使　女よ、汝の悲しみを軽減するためには、
産まれたばかりのあの子を崇めるとよい。
あの子をくるんでいる産着に触れなさい――
その子は見捨てられたすべての人を救うことになっている。

（45）

サロメ　おお、栄光に包まれた子よ、恵みの王よ、
わたしの罪を憐れみください。

わたしは罪を認めます――わたしは間違ったことをしました。
おお、恵まれた赤子よ、わたしに慈しみのいくらかをお恵みください！
（46）
そして、乙女のままでいらっしゃるあなたにも願います、
このように膝を突いて、憐れみを求めます。
もっとも聖なる乙女よ、わたしを慰めてください、
慰めの言葉の少しでもいいのです、おっしゃってください。
（47）
マリア　神の御使いがあなたにおっしゃったように、
わたしの子はすべての傷に効く膏薬です。
わたしの忠告です、さあ、この子の産着に触りなさい、
直ぐにあなたの手は元のようになりましょう。
〔ココデ、さろめハきりすとノ産着ニ触レテ言ウ。〕
サロメ　ああ、この子が今まで以上に恵まれた方となられますように！
確かに、神の御子です。
わたしの手を癒してくれました、
悪い思い込みと間違った思いのせいで見捨てられていたこの手を。

295　290　285

（48）

至る所でわたしは告げましょう、
きれいな乙女から神が産まれた、と。
そして、神がわたしたちの姿かたちを取られたことも。
それは見捨てられた人たちを救うためです。
神の母は、以前そうであったと同じように、乙女のままでいらっしゃる。
他の女のように汚れてはいない。
棘に咲く薔薇のように美しく溌剌としている――
純潔の処女性を持って、白い百合のようにきれいだ。

（49）

さあ、この恵まれた赤子にお別れをしましょう、
恵み深く高貴な母であるあなたにも。
この偉大な奇跡をもっと知ってもらうために、
どこの場所に行っても告げましょう。
マリア　善良なる婦人たち、さようなら、行く道を神が導かれますように。
どの旅先でも、神があなた方を守ってくれますように、
主が貴い憐れみをあなた方に恵まれますように。

言葉、思い、行いにおいて二度と罪を犯さないようにするのですよ。

(50)

ゼロミ　それにわたしも、ここからおいとまします、
この恵まれた善良な一行の皆様から。
至る所で、あなた方の慈愛を祈り求めます――
あなた方がわたしたちを終わりなく憐んでくださるように。

(51)

ヨセフ　もっとも力ある主の恵みが
あなた方がどこに居ようと、与えられますように。
あなた方がすべての敵に打ち勝つように、
神があなた方にこの上ない慈愛を与えてくださるように祈ります！

一同　アーメン。

〔「キリストのご生誕」が終わり、「羊飼いたちの礼拝」に続く。〕

〔次頁の写本八八頁は白紙〕

315

320